



(イ)の天国は、キリスト教徒が敬虔な信仰により生まれることができる世界のことです。仏教でも天界というのはありますが、これは次に触れるように、仏や菩薩が救いとりべき理想の世界ではありません。また(ロ)の冥土は冥界とも言い、亡き人が初めに赴くところと言われています。「冥」という字には「くらい」「まよう」という意味があり、冥土と言えば、やはり暗く心細い世界と言えるでしょう。三途の川や賽河原があるそうで、ここで閻魔大王らの裁きを受け、次の世の行き先が決まります。それが地獄、餓鬼、畜生の三途(三悪道)なのか、善業(善い行い)が評価されて天界に生まれるのか、いずれにしても、六道(コラム①参照)と言われる迷いの世界に生まれることに変わりはありません。

(ハ)の極楽浄土というのが、阿弥陀仏の救いで生まれることができる世界です。ここは、暗闇ではなく、無量の光明に満ちたところであり、すべてのいのちが一つに解け合い、敬い合う清浄な仏の世界です。苦悩が消えて楽のみになることから極楽と呼ばれます。浄土の中でも最上の浄土と言われるゆえんです。

## A 2. ハ

【検索キーワード】浄土往生